

## 奥利根 檜俣川右岸尾根～大白沢山 ～カッパ山～背中アブリ山～鳩待峠

久々に長めの山行が出来ることになったこの連休、どこにしようかと行先をあれこれ考えたが、最終的には昔から気になっていたながら実行に移せていなかった檜俣川右岸尾根を中心にしてしようと決めた。本来であれば末端に近い日崎山からトレースしたいのは勿論である。しかし矢木沢ダムまでの道路は GW 中はまだ通行できず、開放期間外の立ち入りは車で入れない以前に徒歩で入っても追い返されるという話を聞いたことがある。夏ですら、ダム近辺の駐車は日帰り以外お断りという状況なので、せっかくアプローチしても入山できずに帰るのでは悲し過ぎると思い、奈良俣ダム側からの入山ルートを考えて。穴のあくほど地形図を眺めて出した結論は、檜俣林道を歩き西桶小屋沢の先で右岸側に渡ったところから支尾根を登りアプローチするという方法である。他に良さそうな取付地点は見当たらないが、かといってこのルートも出だしは結構急に思え、出発前には露岩で取り付けない夢まで見てしまった。全体的には好天に恵まれる予報でありながら、5/1には崩れる見込みとあり、入山を遅らせようかと迷ったが、尾瀬や平ヶ岳に近づけば連休中はきっと嫌になるほどの人が歩いているに違いない。それなら雨で停滞しても人出が少ないうちに山行を終えたほうがマシだ（どれだけ人のいる山アレルギーなんだか…）ということで、当初の予定通り 4/30 を初日とした。

4月30日（日）：晴れ

ダムまでの道路は 4/28 から開通していた。ダムの手前、トンネルを出て T 字路になるところで「この先通行止め」のゲートがあり、そこから歩き始める。檜俣林道はオートキャンプ場へ行く道との分岐からずっと雪に覆われていて、新緑も見当たらず、早春の趣だ。いつも長くて飽き飽きする林道だが、夏の景色とは違って新鮮で少し楽しい。バックウォーターを過ぎてからは道幅も少し狭くなり、三国川林道のように側面から流れ落ちてきた雪がたまって法面化した斜面のトラバースが続いた。東桶小屋沢出合の手前でいよいよ堅く急な片斜面となったのでアイゼンを履き、そのまま少し進むと橋が現れた。祈るような気持ちで橋の先を見ると、予想よりも傾斜が緩く雪が残る斜面となっている。やった！取り付き敗退は免れた！

あっちだこっちだと取り付き地点についての協議をしばらく行い、まっここでいいかということで結局は橋のすぐ先から登り始める。15 分もチョイ藪を登ると、そこには雪尾根が広がっていた。神様ありがとうございます。とりあえずしばらくはスキーも使えそうなくらい雪のたっぷりついた尾根を歩けることが確定し、有頂天になるが、早々に暑さが体力を奪い始めているのに気付く。そう、重荷を背負っての縦走は昨年の GW 以来なのだ。出来ることなら翌日の雨予報を前に少しでも余計に進みたいところだが、何かと理由をつけてはカルピスカき氷休憩を取り、ヨロヨロと無言で歩く。何とか計画書に書いた幕営予定地を過ぎ、日崎山からの主稜線と合流する直前まで進むと極上の眺めと立地の場所があったので、泣く泣くザックを下ろして行動終了とした。止むを得まい。初日くらいは、と思い今回も頑張って担いできたビールが沁みる。羨ましそうに見ていた棚橋さんに勧めたところ、最初は辞退していたが、結局ゴクゴクと飲んでた。（佐貫記）

【日程】

2017年4月30日（日）  
～5月3日（水）

【メンバー】

佐貫（L）、棚橋

【地形図】

藤原、奥利根湖、尾瀬ヶ原、  
至仏山

【記】佐貫、棚橋

## 5月1日（月）：曇りのち雨

今日の天気は持っても昼までとの予報なので、少しでも進んでおこうと4時半に出発する。冷え込まなかったためか雪は縮まらず、昨日到着した時とあまり変わらないコンディションだ。細かいアップダウンを繰り返しながら、先ずは矢種山を目指す。完全に夜が明けた後もどんより曇って薄暗く、こんな様子で昼まで持つのか怪しいものだ。「雨がポツリとでもしたら今日の行動は中止しよう」と佐貫は言っているのだから、とりあえず先を急ぐ。そんな折、トレースらしきものを見つけた。近づいてみると大きな熊の足跡で、指の形もハッキリとわかる。まだ真新しいので、いきなり御対面とならぬように笛を吹いてこちらの存在を知らせておく。

そんなことをしつつ進んでいると、矢種山に着く前に早くも雨が降り始める。丁度良い具合に、ここは矢種山へ登る中段のためか風が当たらないので、速攻で整地を行いテントを張る。中に入ると程なく雨が強くなってきたが、間一髪セーフ。

しばらくすると雨も上がり空も明るくなってきたので、再行動できるかもと期待を持ったがすぐに以前にも増して強く降り出してきた。今日の行動は無理と判断、起きていると腹も減るので今日は沈殿と決め込み寝袋に潜る。結局、ずっと降っていたようだった。（棚橋）

## 5月2日（火）：晴れ

昨日の沈殿でフル充電したつもりだったが寝過ぎしてしまい、予定より30分ほど遅れてスタートする。矢種山に着く頃には日も昇り、気持ちの良い朝だ。

しばらく進むとオミキスズ岩が厳しげに見えてくる。事前に地形図から読み取った感じだと右から行けそうかなと思っていたが、ここからだとなお全体的に傾斜が強くなる。観察しながら近づいてみると弱点がわかり、ロープを出すことなく登ることができると感じてきた。昨年の夏、割沢を遡行した際に下降した檜俣川へのルート等を眺めながら登って行くと、程なく赤倉岳の主稜線へ到達する。赤倉岳は間近だが、そこに行くにはナイフリッジを通過しなければならない。得意の藪雪稜だ。幸い雪も安定しているので突風にのみ気をつければ大丈夫だと判断し、ロープは出さずに進んで山頂を踏む。「マイナー12名山」の一座に、一年間で無雪期と積雪期の2回も訪れてしまった。越後沢の中俣大滝がよく見える好展望台でゆっくりしたいところだが、ナイフリッジを戻らねばならないので、集中を切らさぬ内にススケ峰を目指すことにする。

尾根通しに進み、湿原マーク経由でススケ峰の山頂を踏む。大白沢山へはジャンクションピークを割愛し、トラバース気味に進むこととする。その際、ちょうどジャンクションピーク辺りに登山者がいるのが見えた。大白沢山は上部がやや急な感じだったので、右から廻りこんでピークを踏む。ここには先ほどの方以外にも登山者が訪れるらしく、ワカントレースもあった。「東大白沢池辺りに泊まろう」と佐貫が言っていたが、池はすっぽり雪に覆われていて単なる雪田と変わらないので止めておくことにし、その先のCo1898m辺りでザックを下ろす。

しかしまだ13時前と時間がある上、天気も大丈夫そうなので、景鶴山の山頂を踏みに行くことにする。景鶴山方向にもワカントレースが続いている。ワカンさんが訪れたのは昨日なのか、それとも今朝なのか。景鶴山は遠目には「オケツ」のような双耳峰なので「K2（ケーツー）」と呼びたくなるが、近づいてみると岩と針葉樹に護られた要塞のようである。「行きは良い良い…」とならぬよう、弱点を見極めながら慎重に進み山頂を手中に収める。

一部雪の状態が怪しい箇所があったので、早々に引き返すことにする。往路をほぼ忠実に戻り、件の箇所も慎重且つ素早く通過する。ホッとしていると多分ジャンクションピーク辺りで見掛けたソロの登山者が大荷物を背負って登ってこられた。我々は主だったものをデポしてきたので、激藪部分の通過も案外容易であったが、この方のように全装背負っていたら大変だっただろう。すれ違

いざ少し会話をし、デポ地に戻る。少し休んだ後、カッパ山への鞍部まで進み、だだっ広い所にテントを張った。(棚橋)

### 5月3日(水) 晴れ

早めに鳩待峠に戻ろうと、2時半に起きた。FMラジオではドゥービー・ブラザーズの昔のフェアウェル・ツアーの時のライブをずっと流していて、朝からテンションが上がる。初日に比べだいぶ軽くなったザックを背負い、まずはカッパ山を目指し歩き始めた。今日周遊する予定のカッパ山や外田代、八海山(背中アプリ山)はいずれも無雪期には立ち入り禁止とされている「禁断の地」で、檜俣川右岸尾根と並びなかなか機会のなかった久恋のエリアである。

カッパ山に向かい歩いていくと、左手の尾瀬ヶ原のあたりがスッポリと広がった空間になっているのが次第に感じられるようになる。カッパの頭のように頭頂部だけ木がないからカッパ山なのだろうか、針葉樹の森の間に空間が見えるなどと思ったらそのあたりがカッパ山の山頂だったようだ。

「エログッパ」と呼ばれていた昔の上司のことが何故か懐かしく思い出された。ここから八海山、というよりは背中アプリ山と呼びたい次のピークまではいったん下つての登り返しである。昨日も見かけたワカンの足跡がたまに出現し、同じようなことを考える人が他にもいることを認識する。山頂手前からは更に尾瀬ヶ原やアヤマ平がよく見渡せるようになり、この地の造形の妙に改めて感心した。

本山行最後のピークである背中アプリ山を後にし、外田代を目指す。途中から見通しの悪い樹林帯となったが、コンパスのお陰で天上の楽園ともいうべき静かな平にたどり着いた。無雪期はどんな顔をしているのか、今は想像するしかないが、少なくとも他に人がいない時にここに立てたことに感謝する。後は沢の開き具合と相談しながら山ノ鼻を目指すだけだ。朝方の冷え込みが嘘のようどんどん上昇する気温に大汗をかいて猫又川右俣をひたすら下り、至仏山荘でソフトクリーム休憩。鳩待峠からは乗合タクシーとバスで車を回収し、久々の縦走は無事に終了した。(佐貫記)

### 【行程】

- 4/30 奈良俣ダム(8:13)～檜俣川(11:33/57)～Co1540mC1(15:14)
- 5/1 C1(4:31)～Co1630m(4:59)～Co1603m(5:41)～Co1610mC2(5:55)
- 5/2 C2(4:55)～矢種山(5:40)～赤倉山(8:39/47)～ススケ峰(10:37/46)～大白沢山(11:57)～Co1898m(12:47)～景鶴山(13:58/14:07)～Co1898m(14:46/57)～Co1774m付近C3(15:19)
- 5/3 C3(4:32)～カッパ山(5:22)～背中アプリ山(6:17/27)～外田代(7:06)～山ノ鼻(9:27/45)～鳩待峠(10:56)



檜俣林道は雪がびっしり



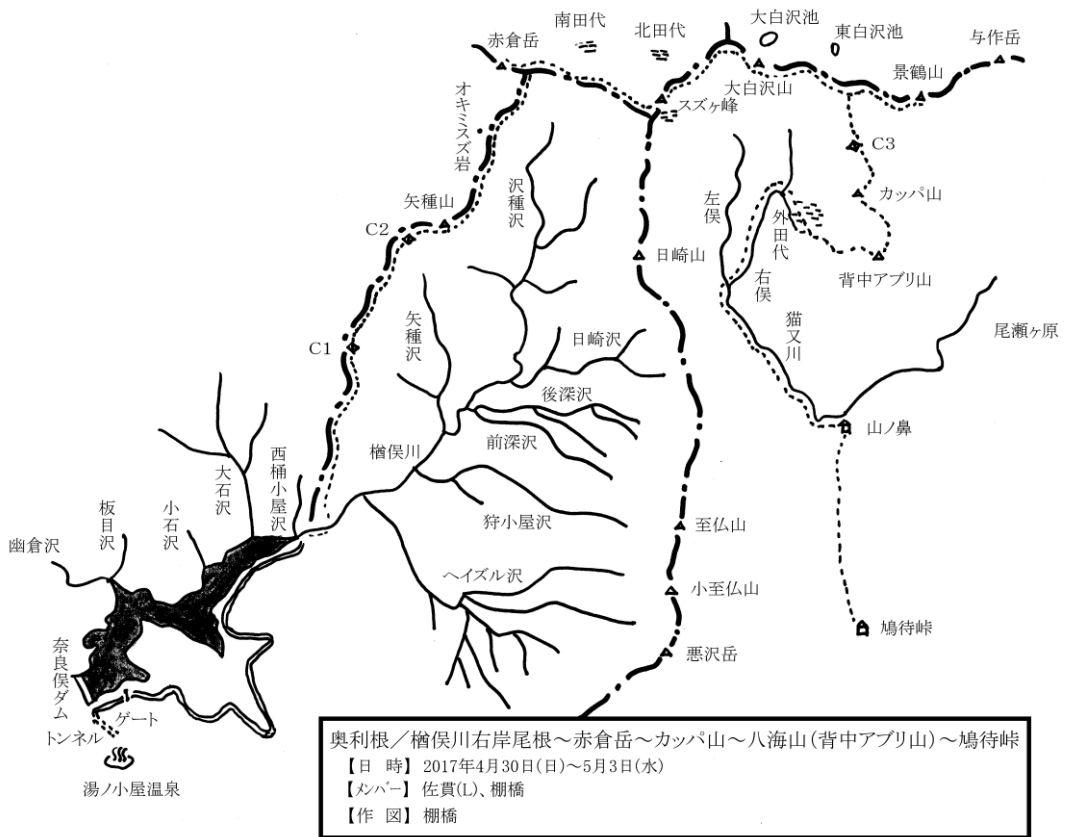
赤倉岳までほぼずっと雪が残っていた



赤倉岳山頂にて/右後方は平ヶ岳



禁断の外田代



奥利根/檜俣川右岸尾根～赤倉岳～カッパ山～八海山(背中アプリ山)～鳩待峠  
 【日時】 2017年4月30日(日)～5月3日(水)  
 【メンバー】 佐貫(L)、棚橋  
 【作図】 棚橋